

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.58  
2015.1

## ヤママユの隠れ家みつけ!

入居者募集中?

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

### モノトーンに覆われた冬の森の貴重な彩り

12月初旬「早い時期にこんなに降ったっけ?」という程たくさんの雪が降り、1月に入ってからのドカ雪が心配されましたが、比較的穏やかな年明けとなりました。例年よりもしっかりと雪が締まった印象の網張の森を歩いてみると、落葉した木々のシックな佇まいが際立つ雪景色の中、かろうじて残っているミズナラの枯葉と共に枝に絡みついていたクリーム色のものを発見! 触ってみると表面は柔らかいながらも輪郭はしっかりとしているヤママユの繭でした。一瞬ですが、それまでのモノトーンの世界が一転してカラーに変わったような不思議な錯覚に陥り、ささやかながらも花や葉っぱなどの色彩豊かな季節では味わえない感動を味わうことができました。この繭の主は既に去年の秋には成虫になっているため、本人?とは会うことはできませんが、冬に歩く楽しみを私たちに残してくれました。

What is  
“Yamamayu-mayu” ?

『**繊維のダイヤモンド**』

ヤママユガ科

別名: テンサン (天蚕)

繭の長さ: 約 4~6cm

分布: 日本全土

若草色の生糸は天蚕と呼ばれる高級繊維。野生種のヤママユはカイコとは異なり大量飼育に向かない。繭からは約 600mの良質な生糸がとれる。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

# amihari birds

アミハリ・バース vol.1

## コゲラ

科名:キツキ科

全長:約 15 cm

体重:18~26g

生態:留鳥

分布:本州中部以北

大きさはスズメほどで、日本で一番小さいキツキです。

網張の雪道を歩いていると、控え目にギーという声が聞こえました。見上げると、コゲラが枝をすばしっこく動き回り、木の中の虫を探していました。

巣穴は、枯れて柔らかくなった立木に作る事が多く、産む卵は5~7個です。オスとメスが協力して卵を抱きます。

産まれたヒナは、22日ほど巣穴で過ごし、外の世界へ巣立っていきます。



### 網張ビジターセンター開設10周年 記念行事を開催しました！

昨年の11月29日、ビジターセンターの開設10周年を記念した講演会「岩手山で出会う花々」を開催しました。講師の滝沢市文化財調査委員の片山 千賀志氏は、岩手山を巡る登山ルート一つ一つに沿って見られる特徴的な花々を、スライドを用い、御自身の思い出やエピソードと共に丁寧に説明して下さいました。当日は一般の方に加え、県自然保護課、森林管理署、山岳団体関係者、地元観光協会、パークボランティアなど様々な分野から沢山の参加があり会場は椅子が不足するほどの盛況ぶりでした。



### スノーシューってなんだろう？



スノーシューの原型は、ネイティブ・アメリカンが狩猟や移動の手段として用いていたもので、木と革でできていました。

1980年代に入り、アメリカでレクリエーション用が開発が進み、アルミやプラスチック製になった事で、軽くメンテナンスも楽になりました。

足回りは、長靴や登山靴など、たいていの履物は装着できます。

防寒具とストックを手にとれば、気軽に冬の森を歩く楽しいひと時が味わえます。



# 佐和子先生の森と友達

松木 佐和子

## 櫃取 湿原

岩手には、人と自然が織りなす美しい景観がそこかしこに見られる。中でも岩泉町の櫃取（ひっとり）湿原は季節を通して訪れたい場所だ。ただし、積雪期は最寄りの県道が封鎖されるので、長い間雪に閉ざされてしまう。湿原では、短い春と夏を惜しむかのように、美しい花々が咲き競う。雪解け間もない5月の水芭蕉や初夏に咲くハクサンシャクナゲを写真に収めようと訪れる人も多い。ここまで聞くと、大自然の中にひっそりとある湿原のように思われるかもしれないが、ここは歴とした放牧地。春から秋まで、現在も30頭ほどの短角牛が草を食べている。



湿原を歩いていると、目と鼻の先ほどの距離まで牛が近づくこともあり、時々ドキッとさせられる。牛が放牧されている場所の一部は近代的な牧草地（樹木を全て切り倒して土壌を剥ぎ、外来牧草を栽培している放牧地）にもなっているが、県の自然環境保全地域に指定されている区域は樹木がそのまま残された林間放牧地となっているため、ミズナラ、ダケカンバ、イタヤカエデなど様々な広葉樹の大木が立ち並ぶ。通常なら藪こぎで一苦労する河畔林だが、ここは牛がササや低木を喰ってくれるおかげで、湿原内をなんなく散策することができる。ただし水芭蕉やハクサンシャクナゲには毒があるため牛に喰い残され、結果的に美しいお花畑が形成される。

昨年5月の早朝、水芭蕉の咲く時期を狙って湿原を訪れた。年や時期によっては遅霜でせっかく咲かせた花（実際には白い部分は花ではなく葉が変化した仏炎包）が黒くなってしまふこともあるので少々心配したが、見事な群落を見せてくれた。印象的だったのは水芭蕉だけでなく、牛達に飼料を与えて回る牛飼いの人達が、湿原を足早に歩く風景だ（まだ草の量が少ないこの時期だけ飼料を与えるらしい）。農家から預かっている牛一頭一頭に平等に餌をやるため、牛に声をかけながら毎朝湿原中を歩き回ると言う。この美しい景観を作っているのは牛達だが、その世話をする人間達の営みなくしては、この北上山地の美しい風景は守れないことを実感した。



\*筆者の佐和子先生は岩手大学農学部で学生たちに森林生態学を教えています。山スキーと歌をこよなく愛する彼女が森に関するエッセイを綴ります。

## おかげさまで今年度、満10年目を迎えます 網張ビジターセンター開設ものがたり

### 第五話 ・・・運営の定着へ向けて・・・

千村 勝哉（元網張ビジターセンター主任解説員）

網張ビジターセンターは、11 関係団体からなる運営協議会のもと、事務局職員を兼ねた解説員 2 人、業務員 1 人の計 3 人の職員体制で平成 17 年 1 月 21 日にオープンしました。3 人ともビジターセンターの実務経験は初めてで、西も東も分からないような状況の中、今まで見てきたビジターセンターを参考にしている見よう見まね式の業務遂行に必死の思いでした。まずすべき仕事としては、館の存在感の普及、施設運行の円滑化、企画展示、自然とのふれあい活動、自然情報の提供、運営マニュアルや観察手引き、自然解説マニュアルの作成等を進めて運営の基盤作りや定着をはかり軌道化することでした。館存在の周知については、パンフレットやチラシのほか、行事等については県庁などの記者クラブに投込みさせていただいていたのですがなかなか掲載されません。そこで広報に詳しい休暇村に教えていただき各社別担当者あてのダイレクト方式に切り替えた途端に広報されるようになりました。ちょっとしたことで知らないだけで大変な思いをしたものです。

館の建物構造、性格や最新式の複雑極まる機器類への不慣れやトラブルからくる対処にも苦労しました。結局、春夏秋冬を 1~2 巡し、来館者対応や標高 760m の地の優しくも厳しい気象、自然環境も含めてのスタッフ、建物、諸機器ともども包括して慣れ親しみ馴染み合うころになって漸く安定してきたように思いました。人も建物、機械も有機、無機物にかかわらず性格や環境を知りあい“気心を知る”ような次元になってはじめて円滑化されるかのような不思議な感を受けました。

企画展示や自然への親しみを啓蒙する資料においては、多くの方々から写真やスキー、山道具、図書、資料類等を惜しげもなく積極的にご提供をいただきハンズオン展示として飾らせていただけたことは本当に有難いことでした。

自然とのふれあい行事等でも講師やパークボランティアの方々のご尽力、フォローで充実の中で安全、円滑に遂行できました。また、小岩井農牧や盛岡市子ども科学館から連携行事へのお誘いもあり視点を変えた掘り下げ方ができる行事にすることもできました。ニュースレターの発行、自然情報の提供においても多くの団体や個人の方々からご支援いただきました。

岩手山などを歩いていますと感動する風景や興味深い自然現象によく出会います。こんな時、火山地形や地質、植生、生息動物、気象、史跡等の視点から、あるいは、それら知見を組み合わせながら観察していきますと、風景の成立ちや変遷、歴史的背景などがみえてきて、一層、感動が深められます。現前の静止画から動画の世界に転化して風景を解釈し、より「自分のもの化」する醍醐味のある楽しみ方もいえます。知見を駆使した場合のメリットでもあります。このために用意させていただいたのが自然観察ポイントマップです。観察ポイントのマップと用語解説冊子のセットで頒布販売しているハンドブックです。この観察手法は自然解説でも用いますが、かかわる知見の統一性が不可欠です。地域のどの解説者によっても矛盾することなく正しく統一された知見に基づくものでなければ地域の信頼性を損なうことにもなります。このため各分野の先生方の力をお借りし足かけ 3 年かけて岩手山と秋田駒ヶ岳一帯を対象として全分野的に解説素材を取りまとめた自然解説マニュアルを作成させていただきました。多くの方々のご支援のもとで館全体として軌道に乗る中、その仕上がりが平成 22 年度と諸都合で遅くなってしまいましたが、これで漸く当館運営活動の最低限の基盤ができたように思いました。

\*筆者の千村氏は 2004 年から 2011 年まで主任解説員として網張ビジターセンターの立ち上げから本格稼働に御尽力された。現在埼玉県熊谷市在住。

## 環境省盛岡自然保護官事務所からの報告

本年もよろしくお願いたします。

昨年10月、古くなった八幡平頂上の展望台を岩手県にご協力いただき建て替えを行いました。古い展望台よりも1m程高くなったので、周辺のオオシラビソも気にならず高い位置からの展望が効くようになり見晴らしが格段に良くなりました。

利用シーズン終盤の供用だったため、十分に周知することが出来ませんでした。是非春になりましたらご利用いただき、頂上からの眺めを沢山の皆様様に満喫いただきたいと思います。

(小笠原レンジャー)



八幡平頂上にふさわしい新しい展望台

## 自然観察会報告

12月20日(土)

・天候は曇り、気温 -5℃  
 ・参加者数は定員を超える一般26名、サポーターはパークラウンティや環境省、県自然保護課など14名と大盛況でした。



### 「冬の網張の森を歩く」

4歳の女の子から70歳を超えたおじいちゃんまで、白一色に雪化粧された網張の森に入りました。

ブナの林の中を吹き抜けてくる風の音に耳を澄ましたり、冬芽とにらめっこしたり、オオアカゲラの姿に歓声をあげたり・・・スノーシューで自由に歩いて本当に楽しいですね。

## \*インフォメーションコーナー

詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

### 「雪の鎌倉森をめざす」(雪山登山体験)

3月15日(日)

ビジターセンター集合 9:00~14:30

定員20名

参加費大人500円 小学生300円



### 「残雪の奥産道を歩く」(スノーシューハイキング)

4月5日(日)

ビジターセンター集合 9:30~14:30

定員20名

参加費大人500円 小学生300円



●現在開催中の網張ビジターセンター企画展

●1月4日から2月28日までビジターセンター展示コーナーにて

### — 荒川三郎写真展 —

## 「八幡平の樹氷」

— 白いアイスモンスターのワンダーランド —

・・・2014年2月下旬の快晴の冬晴れの日に、秋田八幡平スキー場より、蒸ノ湯ゲート、田代沼、藤助森、八幡平頂上、峻雲荘までの往復を、スノーシューで八幡平の樹氷を追いかけた写真です。八幡平頂上より日本海側の樹氷は優しさ・愛嬌があふれているモンスターでしたが、頂上を越え峻雲荘手前までは荒涼としたモンスターでした・・・



### モモンガのつぶやき

それまでの吹雪が嘘のように収まり、弱々しい冬の太陽が県境尾根に沈んでいきます。周囲の雪に覆われた山々も、寒々しい裸の木々も景色全体が青紫色に染まっていきます。専門的にはブルキニエ現象といって、人間の視細胞が青色に敏感になるため、実際以上に青を感知することでそう見えるそうですが、厳しい寒さと雪に囲まれて過ごす身にとってたまらなく贅沢な瞬間の訪れです。(たくちゃん)



### 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 11月 938人 ◆ 12月 502人  
 朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 11月 1.3℃ ◆ 12月 -6.8℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://www17.ocn.ne.jp/~amihari/>

E-mail: [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 冬期(11月から3月末まで) 毎週火曜日休館 9時~17時